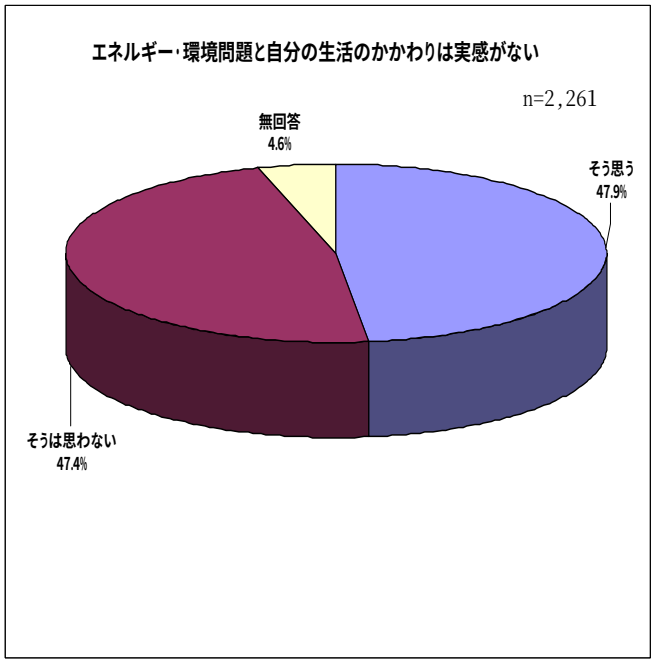
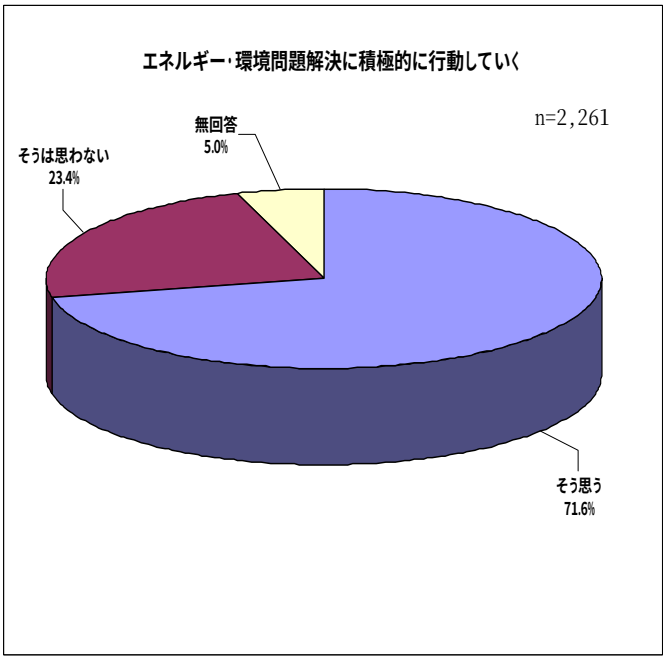
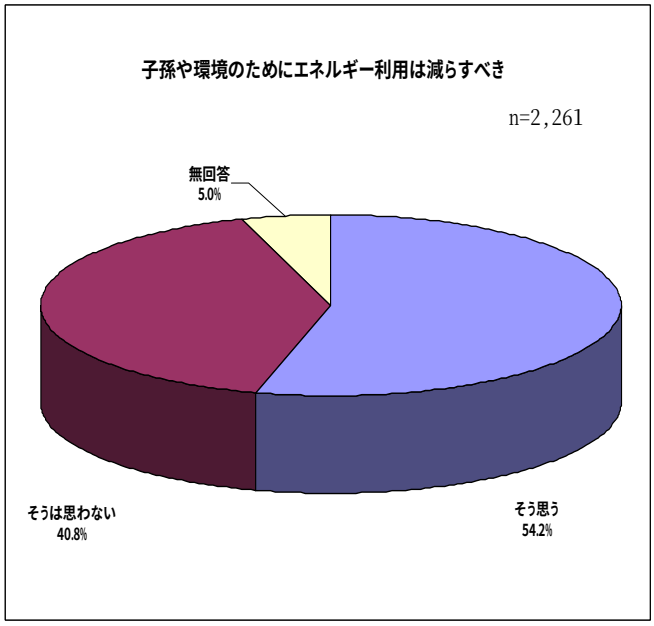
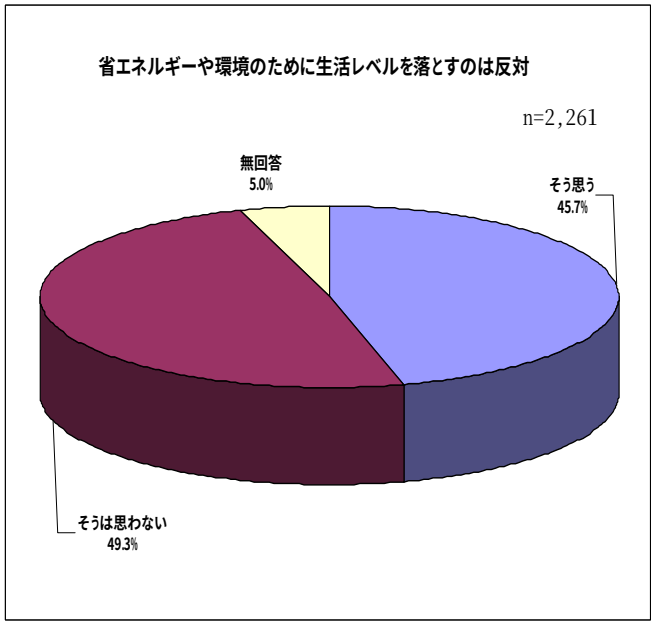
１.“エネルギーや環境”に対する大学生の意識

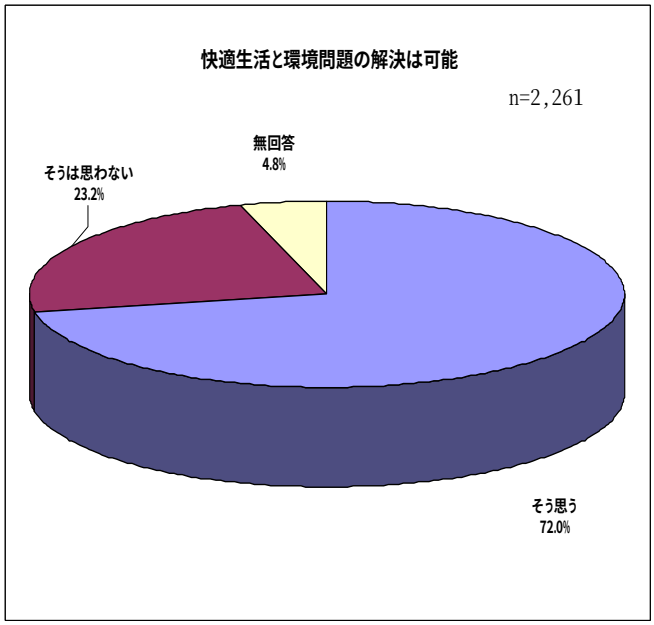
・「エネルギー・環境問題と自分の生活との関わりについて実感がわかない」という意見が、４７．９％と多く、高校までの教育を含めた学習が日常生活にあまり反映されていない。
・「今後のエネルギー・環境問題への対応に関して、積極的に対応をして行く」という意見が、７割以上と多いが、「エネルギーや環境と自分たちの生活のかかわりがわからない」が４７．９％、「省エネルギーや環境保全にために生活のレベルを落とすことには反対」は４５．７％と半数近くが、また「地球環境や子孫のためのエネルギーの節約」に関しても、「そう思わない」とする回答が４０．８％と多く、現在の大学生の建前と本音がうかがえる。豊かで快適な暮らしとエネルギー・環境問題の両立は可能であるという“本音と建前“がある。
・「今後３０年のエネルギーや環境への見通し」に関して回答した大学生で、男性６９．７％、女性８０．５％が「今より深刻になっている」という危機感を持っているおり、男性よりも女性の方が悲観的である。

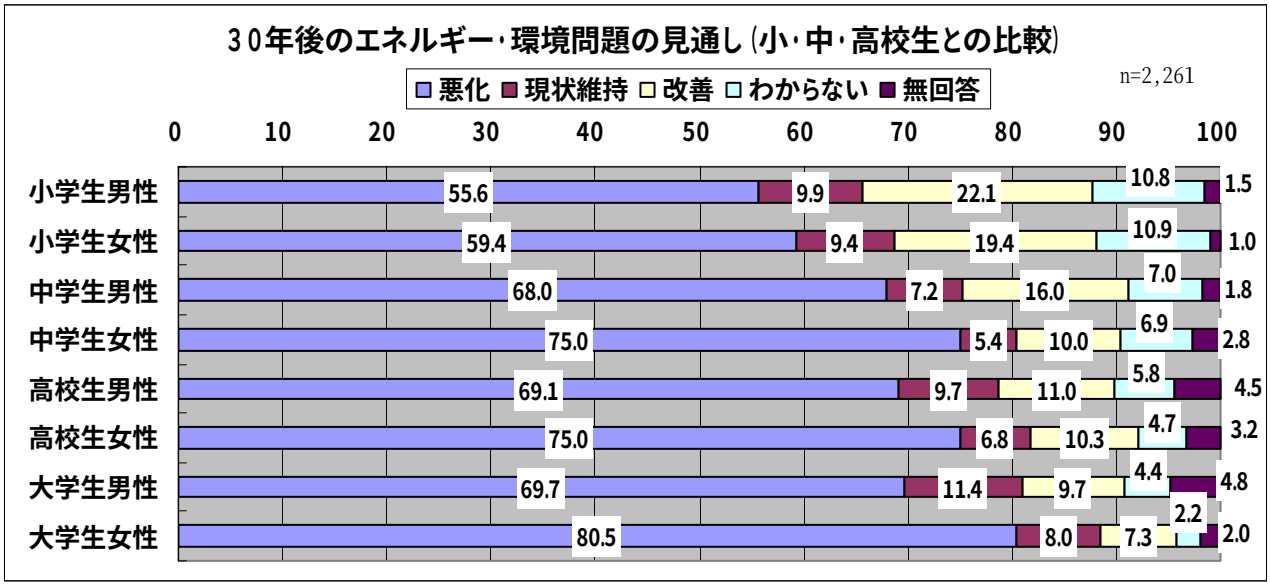








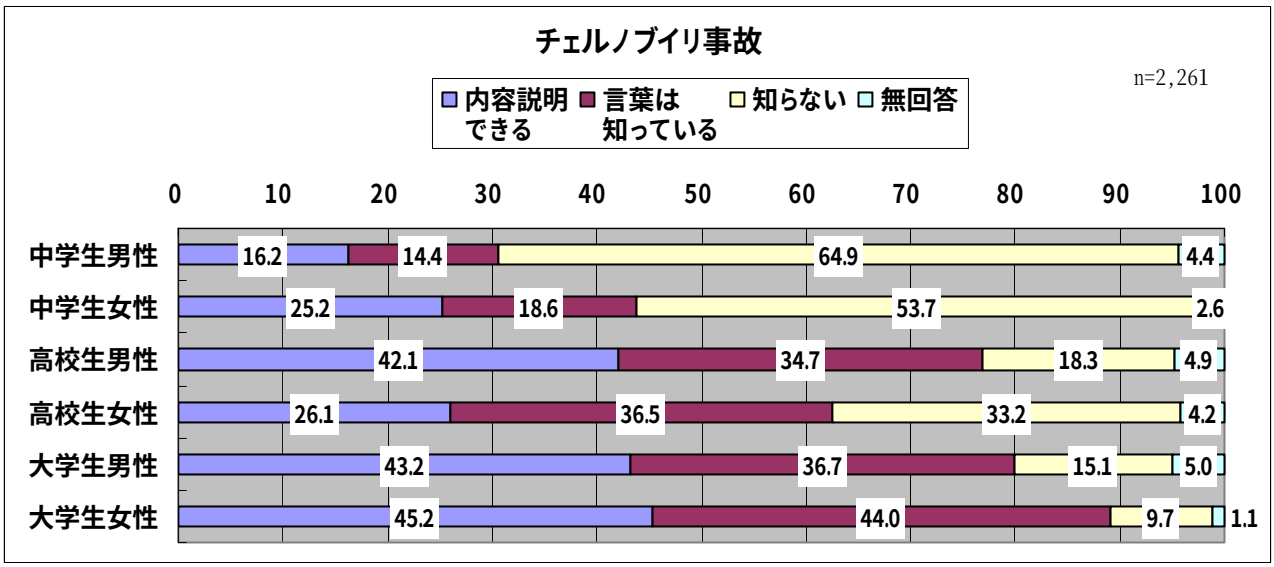


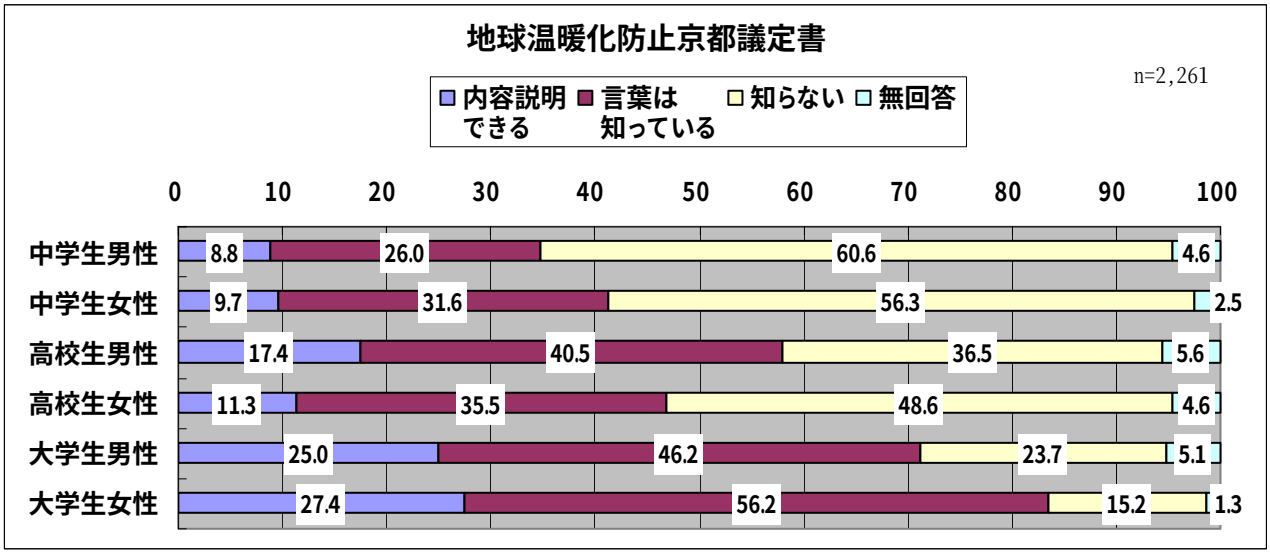


※小・中・高校生のデータは、平成 13 年度に実施した調査時のデータ

２．エネルギーや環境に関する大学生の知識

・“ エネルギーや環境 ” に関する知識に関しては、小・中・高校生よりも大学生のほうが高いということが平成１３年度に実施された同様の調査との比較により確認されたが、「チェルノブイリ事故」を説明できる割合が、大学生の男女ともに４割を超えているのに対し、「京都議定書」の内容が説明できるという割合は４分の１しかない。

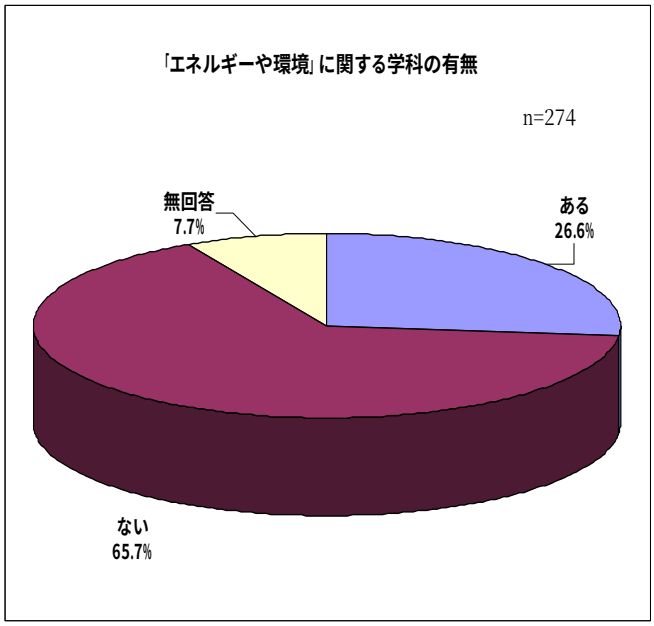


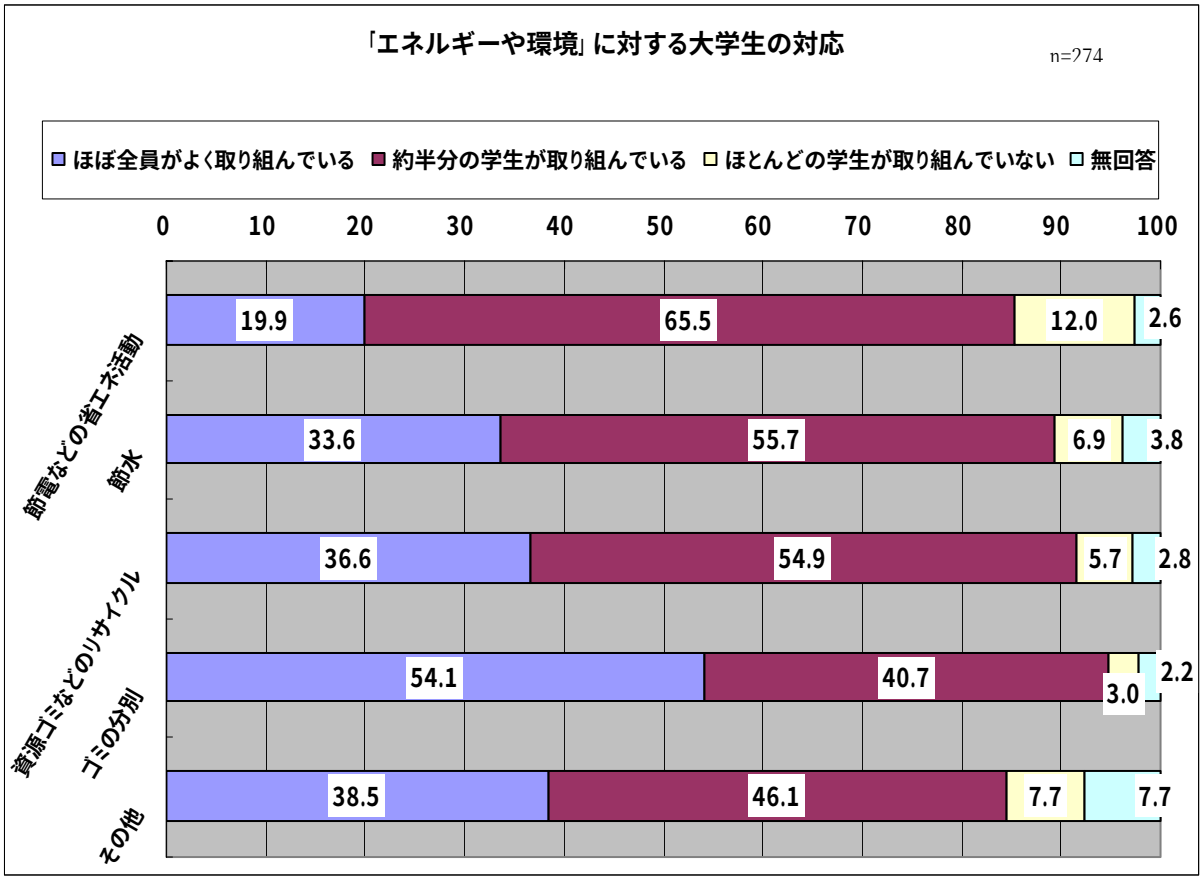


３．大学におけるエネルギーや環境への取り組みについて

・大学においてはエネルギーや環境に関する学部・学科は少ないものの、半数以上の大学においてエネルギーや環境に関する講座を設けている。

・大学の教務課の呼びかけている、項目の中で “ ゴミの分別 ” は半数以上の学生が「ほぼ全員の学生が取り組んでいる」とされているが、“ 省エネや節電 ” については「ほぼ全員の学生が取り組んでいる」とする割合は１９．９％と２割ほどと少ない。


「エネルギーや環境」に関する学科の有無
n=274
無回答
7.7%
ある
26.6%
ない
65.7%


「エネルギーや環境」に対する大学生の対応
n=274
ほぼ全員がよく取り組んでいる
約半分の学生が取り組んでいる
ほとんどの学生が取り組んでいない
無回答
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100
節電などの省エネ活動
19.9
65.5
12.0
2.6
節水
33.6
55.7
6.9
3.8
資源ゴミなどのリサイクル
36.6
54.9
5.7
2.8
ゴミの分別
54.1
40.7
3.0
2.2
その他
38.5
46.1
7.7
7.7

以　　上